

2013年6月4日

沖縄県知事 仲井眞弘多 様
沖縄県土木建築部海岸防災課 御中

要 望 書

北限のジュゴンを見守る会代表 鈴木雅子

私たちはもはや沖縄本島北部沿岸にしか生き残っていないと推定される「北限のジュゴン」の保護活動を行っている市民グループです。ジュゴンは沖縄の豊かな自然環境の象徴であり、これからの沖縄にとってかけがえのない宝です。

この度、沖縄防衛局によって5月31日に提出された辺野古埋め立て許可申請補正書は、報道によると、埋め立て用の土砂はその多くを県外からの購入とし、採取場所が確定していないということで土砂に有害物質が含まれるか否かについての分析調査はなされないままに出されたとのことです。

このことが事実であるならば、沖縄ジュゴンの生存にとって極めて重大な問題です。天然記念物として保護されるべきジュゴンは「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書」（以下「評価書」）によっても最小個体数3頭とされています。

評価書のなかでは辺野古周辺海域の嘉陽地区におけるジュゴンの生息状況について触れられています。現在、嘉陽地区ではこの数年来の台風被害を受けて防災護岸の建設工事が始まっています。工事について、専門家によれば「ただちに影響は出ないが、この海岸の特異な潮流により長期的には変化が起こる可能性がある」と指摘されています。嘉陽沿岸では、現在はジュゴンの餌場である海草藻場が安定的に保存されていますが、将来についての保障はありません。辺野古と比べると嘉陽の藻場の面積は10分の1しかなく、海草遺伝子交流のためにも辺野古の藻場の保全は不可欠です。

ジュゴンにとって重要な海草藻場を埋め立て、そのために採取場所も未確定で有害物質や沖縄固有種を追い詰めるおそれのある生物種を含むおそれのある土砂を大量に用いることによる環境破壊、生態系攪乱は想像を絶します。もしも、このように杜撰で非科学的な埋め立て申請が通るようならば、ジュゴンの絶滅は必至であり、辺野古の豊かな海は二度と戻らないでしょう。

「北限のジュゴン」は、沖縄県のみならず日本にとって、また世界にとっての宝です。辺野古埋め立ては国際的にも注目されています。次世代への責任と誇りある未来のために、「補正書」について厳密な審査を行い必要な再補正を要求していただけることを期待し、要望いたします。



辺野古の浜を分断する
米軍のフェンスにとり
つけられた無数の平和
へのメッセージ

© ひろさわ さえこ